



# The Kiyota Global Times

市立札幌清田高等学校 グローバルコース通信 第2号 May 2021

## 具体的な目標を持って

### 高校生活を送っていますか？

グローバルコース長

紀伊國 薫

高校生活がスタートして1カ月が経ちました。昨年よりは日常に近い始まりとなりましたが、この1カ月の生活ぶりはどうだったでしょうか？ 昨年の初めにも同じ話をしましたが、新1年生も加わりましたので、もう一度皆さんに持ってほしい**共通の目標**についてお話したいと思います。

皆さんは何か目標を持って高校生活を送っていますか？自分が考えた様々な目標があっていると思いますが、グローバルコースの生徒にはもう一つ常に持ってほしい目標があります。それは**英語外部検定試験の上級資格合格**。例えば皆さんに馴染みが深い**英語検定**を例にすると、**2級レベルはすべての生徒が合格し、準1級レベルに挑戦、合格できるくらいのレベル**を目標にしてほしいと思っています。

なぜそのような目標を課したいのかと言えば、今後の新しい大学入試においては、文部科学省では**総合型選抜（旧AO入試）や学校推薦型選抜（旧推薦入試）の定員を全体の3割程度まで増やす**と明言しているからです。高校3年生の夏までに英検準1級相当の英語力があれば、秋以降、それだけで有利に進められる入試があります。

ただ、言うのは簡単ですが、実際に合格するのはそれほど容易ではありません。英検も準2級くらいまでは順調に取得できますが、2級、さらに準1級となると、かなりの準備期間が必要です。ですから、**1年生もしくは2年生の前半くらいまでに2級を取得し、その後1年くらいをかけて準1級に挑戦するくらいの長期的目標**を考えてみてください。

ちなみに**第1回英語検定（5月30日（日）実施）**は、学校での申し込みは終了しましたが、**インターネットや特約書店での申し込み〆切は5月6日（木）まで**となっています。連休を利用しながら、申し込みや勉強に取り組んでください。

右の表は昨年度グローバルコース生徒の英語検定合格状況です。みんなで励まし合いながら合格者数を増やしていきましょう！

昨年度グローバルコース生徒の英語検定合格状況

	2020 3年G	2020 2年G	2020 1年G
準1級	1		
2級	18	10	7
準2級	7	14	13
3級	3	5	2

## JICA エッセイコンテスト表彰式が北海道通信に掲載されました！

少し前の話になりますが2月17日に本校で行われた「**JICA 国際協力エッセイコンテスト**」表彰式の様子が教育系の新聞である北海道通信に掲載されました。

個人賞を受賞した**現2年次の宇賀君へのインタビュー**も取り上げられています。

で、今年度のJICAエッセイコンテストにむけて、皆さんも参考にしてみてください。

エッセイを書くに当たって、大事にしてほしいことは、**自身の体験や考えを具体的に、思いが伝わるように**することです。「まずは知ることが大事」や「これから〇〇してみたいと思う」というような漠然としたものではダメです。日頃から**“Think globally, act locally.”**を忘れないでください。

### グローバル交流会 今年も開催！

1～3年生のグローバルコース生徒が集まって交流するイベントの「**グローバル交流会**」を**5月12日（水）7校時**のLHRをお借りして開催することが決まりました。

当日は**3年生による交流イベント**のほか、グローバルコース卒業生である**田中杏侑さん**（小樽商科大学1年）による**進路講演会**も予定しています。田中さんは昨年度、この交流会の最初に3年生代表で挨拶をしたフレッシュな卒業生で、小樽商科大学夜間主コースの推薦入試に挑戦し、残念ながら不合格でしたが、その後一般入試にむけて必死に努力し、見事合格したという先輩です。推薦入試を受けることの難しさ、再挑戦への気持ちの切り替えなど、参考になる話がたくさんあります。先輩のアドバイスをしっかり聴いて、自分の将来について考えてください。



賞状を手に笑顔を見せる宇賀さん

**JICA エッセイコンテスト 道センター所長賞に 札幌清田高の宇賀さん**

市立札幌清田高校（黒宮裕久校長）グローバルコース1年の宇賀義さんがJICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテストで国内機関賞の北海道センター所長賞を受賞した。心へと題して、自身のアメリカでのボランティア経験をもとに途上国支援に対する思いをつづった。宇賀さんは「自分の素直な思いを書いた作品がこのような名誉ある賞を受賞できうれし」と笑顔で話していた。

コンテストは、次世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本と自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的に、国際協力機構（JICA）が毎年開催しているもの。外務省、文部科学省などが後援している。

本年度のテーマは「世界とつながる自分（me and the world）」。

中学生の部で1万6956点、高校生の部で2万2762点の作品が寄せられた。

テストに参加している。宇賀さんは「心のあたたかさを胸に、前へ」と題したエッセイを応募。自身のアメリカでのボランティア経験をもとに、途上国支援として「いつかは先進国や開発途上国という小さな国をを外し、世界中の人々が平等に先に進めるような世界をつくりたい」との思いをつづった。

審査の結果、宇賀さんの作品は国内機関賞の北海道センター所長賞を受賞。また、同校は11年連続となる特別学校賞に輝いた。

17日には、JICA北海道の齊藤顕生所長が同校を訪れ、宇賀さんに賞状と記念品を贈呈した。

宇賀さんは「自分の素直な思いを書いた作品がこのような名誉ある賞を受賞できてうれし」と喜びを語った。

指導した紀伊國薫教諭は「ことは生徒たちに具体性をもって書くことを重視して指導した。宇賀さんには、受賞を糧に学校を代表する生徒に成長してほしい」と期待していた。